

原子力安全基盤機構に、メーカーや電力関係の方が入っており、それらの人が書類を検査しているのではというイメージがある。今後は独自の調査や検査方法を作り上げるくらい力を持つてもらいたい。

●県の対応

異物問題は、全ての異物を調べてその安全評価がしっかりできるまでは安全性に関する断定はできない。今、保安院ではその評価を進めているところで、県はその過程で保安院と意見交換をしている。いずれ国から正式な評価が出されると思う。最終的な責任は国が負うべきで、しっかりとした宣言を早めに発して欲しいとの意見があったが、まさにそのとおり。さらに言えば、国の見解が、安全・安心として地域に受け入れられるか、国が信用してもらえるかという問題提起がこの地域からなされていると思う。

県は他県と共に、国に対する地域の不信を真摯に受け止め、それをきちんと議論・検証するように国に伝え、議論の輪を広げているところ。

第8回定例会を開催しました

日 時	平成15年12月3日(水) 18:30~20:50
場 所	柏崎原子力広報センター・研修室
出席者	19名 (欠席5名)
説明者	東京電力株、新潟県
オブザーバー	柏崎市、刈羽村、西山町、地域担当官事務所、保安検査官事務所
内 容	・前回定例会後の動き ・異物問題についての意見交換

前回定例会以降の動きについて、県及び東電から説明（経過は12ページを参照）。

▼意見交換

11月の第7回定例会での異物問題の説明を踏まえて、委員同士による意見交換を行いました。

●原因について

- ・東電の資料では本当の原因が解明されておらず、対策も実効性あるか疑問。根本的な問題に触れていない表層的なものに過ぎないことに不満。
- ・過去の落下物も追求すべき。正直に申告したものには賞金をだすくらいまでしてもいい。
- ・異物混入事件は昨年の不祥事以降のこと。不祥事再発防止対策報告書は異物問題に関しては無意味なことを示している。
- ・紛失されているとの申告がまるでなかったことが問題。
- ・システムの問題もあろうが、最後は個人の責任に帰される。
- ・故意に落とされたのではないかとさえ思われる節もある。
- ・昨年の反省が全く活かされていないことに不満と不信を覚える。
- ・昨年の不祥事以降に異物が入ったという説明は信じがたい。昨年8月以前と以降とで下請け業者が別だともいうのか。

●東電の対応等

- ・上層部は現場を把握していないのではないかと